

社會醫學並統計

結核ノ發病豫防ニ就イテ

健康診査ト「プレベントリウム」並ニ一般體育及ヒ教育ノ問題

東京市療養所長 田 澤 錄 一一

昭和五年十月群馬縣ニ於ケル日本中央結核豫防會總會ニ當リ、日本福滋會代表トシテ

一、健康診査並ニ「プレベントリウム」ノ實施方法ト普及ニ就イテ

二、結核豫防事業ノ國家的統一ニ就イテ

ノ二題ヲ提出シテ置キマシタガ、岡ラズモ會議席上ニテ內務・文部兩大臣ノ同會議ヘノ諮問案ヲ見マシテ、此ノ第一題ハ大體ソレニ一致シテ居ルト思ヒマシタノデ、斯界ノタメ最モ欣快ヲ感ジ、詳細ハ右諮問案ニ對スル答申書ニ讓ルコトトシテ唯時間ノ許ス限り大要ヲ述ベテ置キマシタガ、其ノ後十一月復タ長野縣結核豫防協會ニ於テ續イテ又愛知師範同窓會總會ニ於テ講演ノ機會ヲ得マシタカラ、重ネテ同様ノ問題ニ就イテ愚見ヲ披瀝シマシタノデ、今コレヲ綜合シテ大要ヲ述ベルコトト致シマス。(前記第二題ニ就テハ「結核」第九卷第八號參照)

(A) 健康診査ニ就イテ

健康診査殊ニ定期健康診査 結核豫防ノ實行方法ハ種々アリマスガ、其ノ要訣ハ眞ノ早期診斷・早期治療ガ行ハレルヤウニスルニ在リマス。コレハ患者ガ何等カノ徵候ニ氣付イテ、早期ト思ツテ來テ診ヲ乞フ時ハ、既ニ眞ノ早期デナクシテ相當病徵ノ進ンデ居ル事ガ多ク、公立療養所ナドデ、多數ノ患者ヲ扱ツテ居ルト痛切ニコレヲ感ジマス。故ニ眞ニ早期診斷・早期治療ノ目的ヲ徹底セシメヨウトスルニハ、未ダ何等ノ病徵ヲモ自覺シナイ時期、即チ普通ノ健康狀態ニ在ルト思ウテ居ル時代ニ於テ、折々診査ヲ受ケシムル外途ハ無いノデアリヤス。コレハ即チ健康診査デアリマスガ、健康診査トシテ有效ナ方法ハ定期健康診査デアリマス。即チ一年ニ一、二回トカ三、四回トカ、定期ニ健康診

査ヲ受ケテ行ク方法デアリマス。

健康診査ノ實行方法 學校ノ生徒ナドデハ、健康診査ヲ精細ニ行ツテ見ルト、體溫ノ比較的高イ者、加之微熱ト謂ツテ可イヤウナ徵候ヲ呈スル者ハ、全數ノ三分ノ一、二分ノ一、又場合ニ依ツテハ三分ノ二モアリマシテ、今日マデニ診査ヲ施行シタ數校デハ小學校・女學校・中學校ドコデモソノ通りデアリマシタ(結核第五卷第五號第四一五頁及ビ第八卷第五號第五四二頁及白十字第十一卷第十二號參照)。コレガ皆治療ヲ要スル結核病者ダト言フノデハナイガ、兎ニ角コノ高イ體溫ヲ呈スル者ノ中ニ結核性ノ病變ヲ有スル者ハ相當ニ多クアリ、同時ニ側頸部ナドノ淋巴腺ノ腫大ヲ檢スルト、ソレモ甚ダ多數ニ於テ陽性デアリマス(結核第八卷第五號第五四二頁)。此ノ微熱ガ將來ノ結核發病ニ對シテ、ドノ位ノ危險率ヲ示スモノデアルカノ學術的決定モ、亦有益ニシテ興味ノ大ナル問題デアリマスガ、ソレニハ全國多數ノ學校デ、一齊ニ檢溫ヲ勵行シテ五年十年ノ經過ヲ觀察シ、慢性微熱ヲ有シタル者ニ於ケル結核發病ノ有無ガ、他ノ者ヨリ高率デアルカ否カヲ見レバ、最モ信憑スベキ成績ガ得ラレヨウト思ヒマス。

解剖上カラ見テ大部分ノ人間ガ結核ニ感染シテ居ルトイフ説ヤ、免疫生物學的ニ「ツベルクリン」反應ヲ檢シテ、結核感染者ハ甚ダ高率デアルトイフ説ハ、從來モ周知ノ事實デアリマシタガ、ソレノミデハナク、以上ノ如ク既ニ輕イナガラモ、病的徵候ヲ呈シテ居ル者ガ多數デアルトイフ事ニナツテ來ルト、餘程問題ガ差迫ツテ來テ居ルヤウニ考ヘラレマス。加之、又既ニ現在ニ於テモ、微熱者ノ中ニハ「レントゲン」檢査等ニ依ルト、相當進行シタ明カナ病竈ヲ持つテ居ル者モ折々發見サレマスノデ、決シテ等閑ニ附シテ置ク譯ニハ行キマセン。

結核豫防ノ爲ノ健康診査ノ實行方法トシテハ、體重其ノ他種々重要ナ檢査事項モアリマスガ從來學校ノ體格檢査ナドデ餘リ實行サレテ居ルカツタ事項トシテハ、是非檢溫ヲ行ハシムルコトトシタイトイフコトハ、如上ノ實情ニ徴シテ數年來機會アル毎ニ主張スルニ努メテ居ル所デアリマス。出來ルコトナラバ、全國一齊ニ各學校ノ體格檢査ノ際ニハ、コレヲ行ハシムルヤウ文部省ニ於テ御制定ヲ願ヒ、其ノ他内務省關係ノ方面ニ於テモ、青少年ノ體格檢査トイヘバ、必ず檢溫ヲ行ハシムルトイフコトニシテ頂キ、數年間ノ經過ヲ見タイト思ヒマス。兒童デハ隨分著明ナ熱候ヲ自ラ知ラナイデ居ル者モ折々發見サレマス。ソシテ體溫ノ高イ者ニ對シテハ、更ニ「レントゲン」檢査等モ出來ル限り、行ハシムルコトトスレバ一層完全デアリマセウ。

健康診査ノ普及方法 以上ハ健康診査ソノモノ、實行方法ニ就イテ、第一ニ重要ト考ヘル點ヲ述ベタノデアリマスガ、更ニ健康診査ノ普及方法ニ就イテ一言致シタイノデアリマス。コレハ社會事業トカ、公共團體ノ事業トカイフ特殊ナ事業トシテ行ハシメタダケデハ、其ノ範圍ニモ限リノアルコトデ、到底一部分ノ人ニダケシカ行ハレズ、又其ノ注意ノ程度ニモ、眞劍味ノ乏シイコトト思ハレマスノデ、コレヲ徹底セ

シメル方法トシテハ、國民一般ノ醫業ニ對スル觀念期待ヲ變化サセテ、從來醫者ハ病氣ニ罹ラナケレバ、診テ貰フモノ、病氣ニ罹ラナケレバ、醫者ニ用ハナイモノト思惟スル習慣デアツタノヲ改メ、病氣ニ罹ラナイタメニ、折々醫者ニ診テ貰ツテ用心スルトイフコトヲ、醫業ニ對スル期待ノ一半トナラシムルヤウニ、世ノ風習ヲ導クトイフコトガ出來レバ、理想的デアルト考ヘマス。コレハ即チ豫防醫學實施ノ開拓ト謂ツテ可イデアリマセウ。斯クシテ家庭醫ノ仕事ナドガ發達シテ行キマスト、今日開業醫ハ各種ノ方面カラ兒テ、正ニ受難時代トイフベキ狀態ニ瀕シテ居リマスノニ對シテ、一新路ガ拓カレルトイフコトニモナリ、旁々保健衛生ノ發達ニモ貢獻スル所が大デアルト思ハレマス。其ノ他ノ學校醫・工場醫等ノ體格検査・健康診斷ヲシテ、一層精密ナラシムルコトモ固ヨリ必要デアリマス。

斯ク一般世人ノ風習ヲ變化セシムルマデニ導カウトスルコトハ容易ナコトデハアリマセンノデ、政府ガ先ニ立ツテ主動的ニ大ニサウイフ氣風ヲ鼓吹・唱道シテ頂クコトガ最モ有效デアリマセウ。日本ノ結核事業ハ幼稚デハアルガ、ソレデモ治療ノ方面ハ兎ニ角、其ノ緒ニ就イタノデアリマス。然ルニ、豫防的問題トナルト、治療問題ノ如ク焦眉ノ急ニ迫ツテ居ルコトデナイダケニ、非常ニ強大ナ力ヲ以テ、コレヲ鼓吹スルノデナケレバ行ハレナイコトハ明カデアリマス。國家ニハ種々重要ナル問題ガアリマスカラ、一疾病ノタメニソレダケニ主力傾注ヲ要望スルノハ、我田引水ノヤウニ見エマセウガ、一年間ニ斃レル結核死亡數ノ大イサト、國民ガ一年間ニ消費シツ、アル結核病ノ療養費乃至活動生産力ノ損失等ヲ總計スレバ、可ナリノ大努力ガコノ一疾病ノタメニ傾ケラレテモ、決シテ空費ト稱スベキデハナカラウト考ヘマス。

(B)「プレベントリウム」ニ就イテ

「プレベントリウム」健康診査ニ依リ、眞ニ早期ノ肺結核患者又ハ肺結核ヲ發シサウナ結核性虛弱者ヲ發見シタ時、コレヲ如何ニ處理スルカノ問題ニ就イテ考ヘテ見マスニ、輕症肺結核患者ノ療養ヲ主ナル目的トシテ居ルモノハ「サナトリウム」(療養所)デアリマスガ、コレニ對シ近來外國デハ、更ニ「プレベントリウム」(豫防所)トイフモノガ出來テ參リマシタ。「サナトリウム」デモ「プレベントリウム」デモ、結核以外ノ他ノ疾病患者ヲ收容スルコトモアリマシテ、例ヘバ神經病ノ「サナトリウム」トイフガアレバ、又心臟病ナドノ兒童ノ保護ニ就イテモ「プレベントリウム」ガ唱道サレテ居リマス。併シ「サナトリウム」ニシテモ「プレベントリウム」ニシテモ、其ノ主ナル目的ハ、結核病豫防ノタメデアリマス。

今結核豫防ノ立場カラ「プレベントリウム」ニ就イテ少シク卑兒ヲ述ベテ見タイト思ヒマス。「プレベントリウム」ハ外國デハ専ラ虛弱兒童ヲ收容スル施設トシ、又主ニ田園・山間ニ設ケラレテ居リ、林間學校ナドト區別ノツカナイヤウニモナツテ來テ居リマス。コノ「プレベントリウム」ハ結核豫防ノ精神カライフト最モ適切ナ施設ト思ハレマスノデ、今其ノ精神ニ從ツテ此ノ名稱ヲ採用シ(詳細ハ後ニ述ブル補遺ノ條下

ニ讓ル)、其ノ實行方法ニ就イテハ我が國社會ノ實情ト結核發病ノ學理トニ照シ最モ能ク之ニ適合スルヤウニ行ウテユカウトシマスルト、ドウナリマセウカ。之ニ就イテ先ヅ定義及ビ年齡ノ點カラ述ベテ見マセウ。

定義及ビ年齡 米國デハ私ノ見聞シタ所デハ、「ブレベントリウム」ニ收容スルノハ十七歳マデトイフ位ガ、最モ年長ノ所ノヤウデアリマス。シカシ我が國情カラ申シマス、年齡ノ區別トイフヤウナコトヲ嚴シク言ハズシテ、大體ニ於テランケ氏ノ結核第二期ノ者ヲ收容シ第三次期即チ肺結核ノ發病豫防ヲ目的トスルトイフコトニ、病理學上ノ見地カラ主要目標ヲ定メタガ可イト思ヒマス。固ヨリ二次期結核デ死亡ニ至ルモノモデアリマスカラ、二次期結核ノ増悪豫防ヲ目的トシテ收容スルトイフコトモ必要デアリマスガ、主ナル目標ハコレヲ肺結核豫防トイフ所ニ置キタイ。尤モ肺結核デモ輕症ノ非活動性ノモノハ療養所治療ヲ要シナイトイフコトハ、近來獨逸ナドデ多クノ人カラ唱ヘラレル所デアリマスカラ、ソレ等ハ再發増悪ヲ豫防スル意味デ、コ、ニ屬セシメテ然ルベキデアリマス。ソシテ前ニ述ベタ如キ意味ノ結核療養所、又ハ結核病院デ結核病ノ治療ヲ主トスルニ對シテ、「ブレベントリウム」デハ豫防的療養又ハ其ノ練習ヲ行ハシムルヲ主トシタインデアリマス。

肺結核發病ノ多イノハ二十歳前後デアリマスガ、勿論ソレ以上ノ年齡ノ者ニモ多數アリマス。而シテソノ發病豫防トシテ、最モ重要ナ時期ハ發病ノ直前デアルト思ハレマス、即チ發病ノ前驅時代ノ中デハ、ソレニ近い時期ホド豫防注意ヲ要スルコトガ大デアリ、古イ過去即チ年少ノ時代ホド、其ノ危險ガ少イ譯デアリマス。故ニ年齡デイフト「ブレベントリウム」的ノ施設ヘ容レルノハ必ズシモ兒童ト限ル譯ニハ行カズ、青少年デモ大人デモサウイフ必要ノ最モ大ナル者カラ、先ヅ以テ容レルトイフガ可イト考ヘマス。例ヘバ肋膜炎ノ恢復シタ患者ナドニハ、治癒後二ケ年間位ハ特ニ警戒ヲ要スルトシテモ、ソレ等ノ人ニハ斯カル施設ノ中デ、適當ノ注意ヲ加ヘシムルコトハ最モ有益デアリマセウ。ソシテ固ヨリソレガ兒童ニ限ラナイコトハ明カデアリマス(實行上ニ於テ兒童ト成人トヲ別々ニ收容スルノ有利ナルハ言ヲ俟タナイ所デアリマスガ、茲ニ述ベタイノハ、豫防的治療ヲ要スル者ハ必ズシモ兒童ニ限ラナイトイフ點デアリマス)。

所在地 肺結核發病直前ニ近い者トイフコトニナルト、多クハ中等教育以上ノ年齡ノ學生トナリマスノデ、學校ナドモ種々ニ分レテ參リマスカラ、現在通學シテ居ル學校ヲ廢學、又ハ休學サセテ林間學校式ニ一所ニ集メルトイフヤウナコトハ出來ズ、自然各種ノ學校ヘ通學シテ居ル者ヲ、ソノマ、適當ニ指導シテ行クトイフノデナケレバ實際問題トシテ行ハレ難イコトハ明カデアリマス。強ヒテコレヲ可能トカ必要トカイフナラバ、ソレハ患者ニ就イテノ診斷ノ實情ニ通ジナイ人ノ言デアツテ、實際ニ我々ノ醫學的知識デハ凡テノ被檢者ニ對シテ、休學廢學ヲ要スルカ、普通ノ通り通學シテ居テ可イカノ一ツニ判然ト區別スルナドイフコトハ不可能デアツテ、寧ろ其ノ多數ガ當分精細ナ觀

察ヤ、合理的ノ監督ノ下デ一程度ノ警戒ヲ守ラセテ見ルトイフヤウナ結果ニナルコトガ多く、醫者ノ獨斷ヲ用キズシテ、患者ノ一身上ノ立場ヤ、利害ヲ顧慮スレバスルホド、益々一定期間ノ觀察ヲ必要トスルノデアリマスカラ、自然現在ノマ、監督・指導シテ行キタイコトニナリマス。而シテ是等監督・指導ヲ受クベキ學生生徒ノ中ニハ、若シ適當ナ施設サヘアレバ、ソノ中ヘ入院サセル方ガ可イ者モ多クアリマセウ。ソレヲモ「プレベントリウム」ト稱スルナラズ、必ズシモソレハ田園・林間・海濱ニ設クルトイフ譯ニハ行カナイ。

又斯カル施設ノ中ニ於ケル實行方法ニ就イテ考ヘマスニ、既ニ呼吸器病ヲ發シタ者ノ療養ニ就イテ申シマシテモ、固ヨリ空氣ノ新鮮ナ閑靜ナ土地ガ、土地トシテ療養生活ニ適スルコトハ論ヲ俟タナイ所デアルガ、氣候ト療養效果トノ關係ニ就イテハ、從前カラモ一方ニ於テ唱ヘラレタ通り、殊ニ歐洲大戰ニ際シ、都市周圍ノ療養所等ニ於テ十分ナ效果ヲ舉ゲタ事實アツテ以來、益々寬ニナツテ來テ居リ、日光浴ノ如キハ以前カラウイーンノ市中デ、ビルケ先生ガ燦然タル成績ヲ舉ゲテ居ルコトモ、有名ナ事實デアリマス。殊ニ「プレベントリウム」式ノ攝養生活ニ至ツテハ、治療ノ場合ヨリハ餘程寬ニシテ、八釜シキ事ヲ言ハナイトセネバ行ハレズ、又實際ニ於テモ最モ必要ナ問題ハ氣候療法等デハナクシテ休養デアリ、攝養生活ニ關スル醫學的ノ教育デアルカラ、種々ナ理想的氣候ヲ追ツテ、休學・轉地等ヲナスニハ及バナイ場合モ多く、又郊外遠隔ノ地ヘ出テ通學ノ時間ヲ多ク要シタリ、監督・指導ノ手薄ナルニ乘ジテ、放漫生活ニ流レタリスル如キ結果ニナツテハ却ツテ目的ヲ失シテ逆ノ方向トナル如キコトモアリマス。

我が國ノ實情ニ適シタル「プレベントリウム」式入院施設 「プレベントリウム」ハ田園聚落ノ形式ニ於テ特設シ、専ラ虛弱兒童ヲ收容スルコト歐米諸國ノ例ニ倣フコトハ固ヨリ可イ、大イニ獎勵スベキコトデアリマス。ケレドモ、實際ニ有力ニ結核發病豫防ノ實ヲ舉ゲヨウトスレバ、其ノ意味方法ヲ斯ク限局スルコトハ、其ノ發達ノ上カラ言ツテモ、其ノ作用ノ上カラ言ツテモ、現下ノ我が國ノ實情トシテハ適切デナイト感ゼラレマス。デ、之ハ「プレベントリウム」ノ原法トシテ置イテ、其ノ他ノ變法ハソレ々最モ事情ニ適應スル形式、社會ノ需用註文ノ最モ多カルベキ組織ニ於テ種々ニ設立セラレルヲ我が國ニ於ケル「プレベントリウム」ノ特徴トシ、之ニ相當ナ宣傳ガ各方面カラ行ハレタナラバ、或ハ其ノ發達モ意外ニ容易デアラウカト思ハレマス。

我が國ノ現在ノ實狀ニテ結核豫防上最モ考慮ニ入レザルベカラザル二三ノ點即チ豫防ノ必要ノ最モ切迫セル人、個人々々ノ一生ノ生活・職業ノ問題、差當リノ經費關係及ビ普及ノ可能性等ヲ問題トシテ考ヘマスルト、

第一ニ學生ニ就イテ所謂試驗地獄ノ過勞ヲ問題トセネバナリマセン。コレニ關シテハ職業療法ノ問題モ起リマスガ、從來稱揚サレタ戶外職業モ必ズシモ可イトハイヘマセン。時々過勞ニ失スルカラデアリマス。又病勢程度ノ診斷ガ容易デナク、誤ツテ無用ノ轉職ヲナサ

シメル恐レナキヲ保セナイ場合モアリマス。故ニ學業ヲ抛擲セザルマ、適當ニ指導スルコトガ出來レバ、最モ理想的ト惟ハレル場合ガ甚ダ多イ。

第二ニハ、今日醫業ノ受難時代ニ當リテハ、實地醫家ノ仕事ハ必ズシモ從來ノ治療醫學ノ範圍内ニノミ膠著セズ豫防醫學ノ方面ヘ進出スルハ旁々有意義トスベキデアリマセウ。故ニ其ノ一ツトシテ、比較的簡便ニ休養「ホーム」ノ如キ仕事ガ衛生法規ノ寬ナル取締リノ下デ隨所ニ行ハレルヤウニナリマシタナラバ、醫師ノ爲ニモ適當デアリマセウガ、又社會ノ側カラ見テモ少クトモ醫者以外ノ者ノ普通ノ下宿屋觀念ニ依ル宿舍施設ヨリ肺結核發病豫防法トシテ遙カニ有效デアリマセウ。否寧ロ學生寄宿ノ理想的ナルモノハ通常醫者ノ指揮ノ下ニ在ラシメルトイフ程ニ醫師ガ世ノ中ヘ進出致シマシタナラバ、最モ良ク保健ノ成績ガ舉ゲラレルノデアリマセウ。少クトモ虛弱學生ノ保護ヲ營ム寄宿ハソレガ可イ筈デアリマス。私ハ米國デ病院附屬ノ體操學校ヤ醫者ガ校長ヲシテ居ル體操學校ナドヲ見マシテ、多數アル體操學校ノ中校長ガ醫者ノ學校ガ幾ツ位アルカヲ尋ネマシタ時、半數ハアラウトノ答ヲ得タコトヲ記憶シテキマスガ、現在ノ我が國トシテハ學生寄宿ノ攝養法指導ナドハ第一ニ醫者ノ仕事トシテ願ミラルベキ必要ノ問題ト考ヘマス。

學生ノ宿舍施設以外一般青少年ニ對スル問題トシテモ日本ニ於ケル結核豫防事業ハ、餘程實情ニ適應スルモノデナケレバ行ハレナイと思ハレマスガ、私ノ考ヘデハ、健康診査ヲ一般開業醫家ノ業務ノ一半トシテ普及セシムルト同時ニ、コレト相俟ツテ「プレベントリウム」式休養觀察施設トシテ一般開業醫家ノ小規模ナ安價ノ經營ヲ獎勵スルノガ捷徑デアルト思ハレマス。ソシテ之ニ對シテハ警察ノ取締リノ如キモ、病院規則ノ如ク嚴シクシナイデスレバ、最モ行ハレ易イデアリマセウ。之ハ固ヨリ國家社會ノ方針ガ爾ク變更サレテ來ナケレバ出來ナイ所デアリマスガ、今日ノ我が國ニ於ケル青少年ノ過勞ト理想的休養施設ノ不備トヲ對照比較シマスト何トシテナリソコニ迄進メタイト思ハレマス。

斯カル理想ノ實現ヲ期スルニハ、結核ノ治療及ビ豫防ノ一般的方法ニ就イテ、空氣ヨリモ氣候ヨリモ先ヅ第一ニ「教育デアル、練習デアル」ト言フコトヲ理解セシムルコトガ肝要デアリマス。デ、「サナトリウム」乃至「プレベントリウム」ニハ修養道場、或ハ學校乃至寄宿舎ノ氣持ガ存シナケレバナリマセン。私ハ瑞西ノハイリゲンシユウエンデサナトリウムヲ訪ネタ時、興味深イ語ガ掲ゲラレテアルノヲ見テ今尙記憶シテ居リマス。曰ク、

「療養所ハ衛生的の生活法ヲ會得セシムル學校デアル。患者ハ種々ナル誘惑的ノ廣告ニ迷ハサル、コトナク、専心此ノ安全ナル方法ニ從ハナケレバナラス。

路傍ノ乞食ノ如ク坐シテ健康ト生命トノ贈物ヲ神ニ求ムルノデナク、自己ノ努力ニヨリテ天幸ヲ得ントスル者ノミ、其ノ目的ヲ達スルコトガ出來ル」ト。

肺結核治療上、精神療法が重要ナ地位ヲ占メル事ハ論ヲ俟タナイ所デアリマスガ、其ノ精神療法ニ於テハ第一ニ、醫師個人ノ醫學的・人格的作用ヲ患者ノ上ヘ及ボスコトガ肝要デアリ、醫者ハ病氣ヲ治療スルノデハナク、病人ヲ治療スルノダトイフ語氣ハ結核治療ノ場合ニ最も痛切ニ感ゼラレマス。之レ即チ教育デアリマス。而シテ豫防ノ場合ニ於テハ治療ノ場合ヨリハ一層ニ教育的トナツテ來ルコトハ固ヨリデアリマス。

(C) 結核豫防問題ヨリ一般體育並ニ教育ノ問題ニ及ブ

結核發病豫防ノ要點 結核豫防ノ方法トシテハ、未感染者ガ他ノ患者ヨリノ感染ヲ恐レルトイフヤウナ意味ノ危險ハ、多クハ乳兒等ノ場合ニ適スルコトデ、成長シタル人間デハ普通ハ既感染者ノ發病ヲ防グトイフコトニ歸著スルノデアリマス。ソレハ自己體內ノ結核菌ノ轉移ニ對シテイフノカ、他ヨリノ再感染ニ對シテイフノデアルカノ點ニハ議論ガアリマスガ、ソノ問題ハ今コ、ニハ論ジナイコト、スルモ、ソノ何レニ對シテデアツテモ、兎ニ角臟器殊ニ肺臟組織ノ強固ナ抵抗力ヲ養フトイフコトハ、最も肝要デアリマス。

結核病ニ對スル抵抗力ヲ養フ方法ハ、大體ニ於テ一般ノ體育保健法ト合致スルノデアリマスガ、唯個人個人ノ體力ヲ顧ミ、分量ヲ測ツテ適當ニ行ハウト努力スル所ニ、結核問題トシテノ獨特ノ苦心ガアリマス。結核病ノ治療ニ於テハ、安靜ヲ基礎トシ運動ハ強烈ナル藥劑ノ如ク嚴ニ分量方法ヲ測ツテ行ハシメルコトヲ、最も肝要トシテ居リマス、ソレハ少シク分量ヲ誤ツテ過度ニ失シテモ、忽チ種々ノ危險ヲ徵候サヘモ現ハレ易イカラデアリマス。結核ノ治療ト豫防トハ本來判然ト區別シ得ルモノデハナク、豫防的治療ト謂ツテ連續シタ觀念デ行フガ可イト思ハレマスガ、安靜ト運動ニ分量ヲ定メテ、實行セシメヨウトスル方針ナドモ全く同一ト考ヘマス。「プレベントリウム」ヤ林間學校デハ殊更ニサウデアアルガ、一般健康者ノ體育保健モ、コレノ延長ト見テ可イデアリマセウ。

今日學生生徒ノ間ニ非常ニ結核死亡者ノ多イトイフノモ、其ノ眞因ハ過勞ニ在ルト考ヘマス。體力ノ弱イ者デ學業ノ過勞ガアリ、或ハ又更ニソノ上ニ運動ノ過勞ガアレバ其ノ危險ハ著シク増大スル譯デアリマス。故ニ運動ヲ尊重スルト同時ニ、又休養ヲ尊重シ、ソレゾレ適當ノ種類分量ヲ選擇シテ行ハシメタイノデアリマスガ、其ノ種類分量ノ適當量トイフハ、個人個人ニ就イテ身體狀態ヲ檢シナケレバ決定サレマセン。コレヲ爲スハ即チ健康診査ノ重要ナ目的デアリマス。修養時代ノ青年ガ自ら試驗地獄ヲ啣ツモ意氣地ノナイ話デ雄々シク堪ヘテ行カナケレバナラナイ。運動選手トシテ活躍スルモ亦勇シイ話デ、固ヨリ推賞スベキ限リデアアルガ、ソレニハ是非健康診査ヲ受ケテ身體狀態

ヲ確メテカラニシナケレバナラナイ。運動競技場ニ立ツテ、其ノ競走選手ガ若シ微熱デモ持ツテ居ル人デアツタラバトカ、若シ尿ニ蛋白デモアル人デアツタナラバト思フ時、何人モ眞ニ慄然タル感ジテ禁ジ得ナイデアリマセウ。勉學セントスル者ガ自己ノ資財ヲ顧ミズシテ、著手スルホドノ無謀ハ少イガ、同様ニ身體ノ健康狀態モ能ク檢シテ置イテ著手セネバ、無謀ノ譏リヲ免レナイト思ヒマス。

健康診査ハ豫防醫學實地普及ノ第一線ニ立ツベキ方法デアツテ、コレニ依レバ勿論結核初徴バカリデナク何病ノ前兆ガ發見サレルカ分ラズ、青年ニハ神經衰弱初徴等ノ發見サレルコトモ多ク、コレニ依ツテ活動能率ノ増進サレルコトモ大キイ。腎臟病・糖尿病・血管心臟系障礙等ノ發見ニ依ツテハ中年以上ノ人デモ、早老防止保壽ノ效モ奏シ得ラレル。然シ青年ニ最も多ク發見サレルモノハ微熱乃至呼吸器系障礙デアツテコレハ夭折廢疾ノ防止・活動能率ノ保護ニハ最も重要ナ問題デアリマス。

結核ノ災害 我ガ國民ノ年齡別死亡數ヲ見マスト、幼兒時代・老年時代ノ二ツノ高イ死亡率ノ間ニ於テ、二十歳前後ニ男女共特ニ高イ山ガ一ツ聳エテ居リマス。コレハ文明國民トシテハ他ニ類ヲ見ナイ所ノ高イ山デアアルコトハ先年矢野恒太氏ノ注意サレタ所デアリマスガ、一方内閣統計局ノ統計ニ依ツテ十五カラ二十四歳マデノ十年間ノ死因ヲ見マスト、其ノ半数ガ結核トナツテ居リマス。然ルニ實際ニハ死亡診斷書ニ結核トシテ届ケ出デラレテ居ナイ結核死亡者モ甚ダ多イコト、思ヒマスノデ、先ヅ此ノ年代ノモノ、死亡者ノ大部分ハ、結核ト見テ誤リナカラウト考ヘマス。此ノ統計ニ現ハレタ數ノ一ツツ、ガ皆有爲ノ青年ヲ犠牲トシテ、各家庭ノ希望ヲ絶チ、各家庭ヲ暗黒ニ包ミツ、アル最大凶變ヲ物語ルモノデアアルコトヲ考ヘマスト、此ノ莫大ナル數字ガ我ガ國民ノ福祉ト實力ヲ阻害シツ、アルコトノ如何ニ大ナルカハ、想像ニ難クナイ所デアリマス。

教育ノ基準ヲ體育保健ニ置クベシ 人生ノ重要事ハ種々アリマシテモ、結局ハ教育ト保健トノ二者ニ歸著スベキコトハ勿論デアリマスガ、其ノ教育ニ依ツテ有爲ノ青年ヲ犠牲トスルコト、斯クノ如キ數ヲ示サウデハ、寔ニ目的ヲ失シテ居ルト言ハネバナリマセン。此ノ弊風ヲ匡救スル道トシテハ教育ノ方針ヲ一變シテ、體育保健ヲ基準トシ中心トシテ、ソノ上ニ、德育モ、智育モ築キ上ゲテ行クトイフヤウニシナケレバナラナイト思ヒマス。私ハ歐洲大戰前ノ獨逸ノ「ユーゲントブフレーゲ」ノ實情ヲ視察シテ、當時痛切ニコレヲ感ジタノデアリマスガ、戰後ノ米國ニ於ケル基督教青年會ヤ、「ボーイスカウト」ナドノ狀態ヲ見マシテモ亦同様ニ感ジタノデアリマス。何レモ體育運動ハ甚ダ盛デアリマスガ、ソレハ決シテ體育技術ソノモノ、爲ノ體育運動デハナクシテ、ソレニ依ツテ人間ヲ作ラウトスル目的ニ見エルノデアリマス。コレハシカシ必ズシモ外國ノ例ヲ求ムルマデモナク、日本ノ昔デハ武士ハ皆武術ニ依ツテ諸種ノ修養ヲ積ンダモノデアツテ、我々日本國民ニハコレニ依ツテ、コノ問題ニ對シ最も明確ナ思想ガ得ラレマス。

近來折々思想國難等ノ聲ヲ耳ニシマスガ、兎角不健全ナル身體ニハ、不健全ナル精神モ宿リ易イコトヲ思フト、體育保健中心ノ教育ヲ讚仰スベキ理由ハ一層切實ニナツテ參リマス。人ヲ教育スルノ道智育ニ偏スルヨリ禍ノ大ナルハナシト思ハレ、徳器ヲ成就セシムルノ道、先ヅ身體髮膚諸臟器ノ健全ヲ養フヨリセシムルハ、現下ノ痛切ナル急務ト思惟サレマス。教育勅語ノ御精神ニ於テモ必ズ體育ヲ重要トセラレテ中ナイ筈ハナク、徳器成就ノ御聖旨ハ意味極メテ深長ト考ヘマス。從ツテ現今『豫防醫學實地』ノ開拓ト國民教育ノ問題トハ、密接離ルベカラザル緊要ノ關係ニアリマス。

「プレベントリウム」問題補遺

前掲演說筆記ノ補遺トシテ、「プレベントリウム」ニ就キ尙二三ノ私見ヲ述ベテ見ヨウ。

休養所又ハ休養「ホーム」 肺結核發病豫防ノ目的ニテ入院セシムル施設ハ、概括シテ「プレベントリウム」ト總稱スルガ可イト思ハレルガ、コレハ前ニ述ベタ内容ニ依ルト恰度獨逸テイフ Erholungsheim ノ意味ニ當ル點ガ多イ。

一九一三年ニ Leube 氏が提唱シタ所ニ依ルト、

一、Waldholungsstätten 結核ノ嫌疑アル者、二期三期ノ非開放性結核

一、療養所 一期二期ノ開放性結核、一時的治癒及ビ職業能力ニ對スル見込アル三期患者

三、結核病院 二期及三期ノ急性進行性患者

以上ノ如ク區分サレテ居ルノニ、一九二六年、Teakky 氏が結核ノ治療豫防ニ關スル收容所ヲ四種ニ分ケタ所ニ依ルト

一、Erholungsheim 休養ヲ要スル非活動性結核、虛弱者、豫防ヲ要スル者

二、療養所 就床ヲ要セザル患者殊ニ輕症者

三、結核病院 凡テノ病期ノ患者(重症・中等症・輕症)、所在田舎

四、市立結核科 Städtische Tuberkulose-Abteilung 運搬不可能其ノ他ノ理由ニヨリ都市ヲ去リ得ザル者

右様ニナツテ居ル。何レニシテモ私ノ前ニ述ベタ意味ハ大體ニ於テ此ノ Erholungsstätten 又ハ Erholungsheim ニモ相當ツテ居ルカラ、日本語テ休養所又ハ休養「ホーム」ト呼ンデモ可イ。併シ細カク論ズルト、ソレデハマダ十分一致シナイ點モアリ、又見方ノ違ツタ點モアル。淋巴腺結核・骨關節結核等ヲ治療セントスル目的ト、ソレヲシテ肺結核ヲ起サシメナイヤウ豫防ジヨウトイフ目的トニ依ツテハ、多少相手モ違ヘバ實行方法モ違フガ、休養「ホーム」ニシテモ疲勞ヤ虛弱ヲ恢復サセヨウトイフ目的ト結核發病ヲ防止セントスル意味トハ多少氣

持が違フ筈デアル。保養トイヘバスグ温泉ヘデモトイフヤウニ感ジテ誤リ易イトイフヤウナ語氣ハ、外國ノ醫者モ述ベテ居ル所デアル。
外國ニ於ケル「プレベントリウム」運動 外國デ「プレベントリウム」ト謂ツテ居ルノハ通常田園・山間等ニ設ケラレタ兒童收容施設ヲ指スノ
デアルガ、然シ此ノ「プレベントリウム」モ其ノ定義ニハマダ渾沌タル所ガアル。他山ノ石トシテ、結核事業界以外ニ立ツテ之ヲ觀テ居ル者
ガ、ドンナ事ヲ言ツテ居ルカラ窺フタメ、試ニ亞米利加心臟協會ノ會報ニ述ベラレテ居ル一節ヲ左ニ摘譯シテ見ヨウ。

此ノ國ノ「プレベントリウム」運動ハマダ草昧混沌ノ状態ニアツテ、ソノ眞ノ目的ニ就イテハ種々ナ意見ガ出ルガ、結晶の意見ノ未ダ纏マラナイノハ一ツ
ハ結核學ニ關スル知識ノ缺乏カラモ來テ居ル。

「プレベントリウム」テ行ヒツ、アル主要原則ノ中、傳染源カラノ隔離ノ一項ヲ除ケバ他ノ事項ハ心臟病ニ對スル保護法トシテモ同ジデアル。即チ、

(イ) 疲レルホドノ過勞(例ヘバ過激ノ運動、過重ノ學校課業ノ如キ)ニ對シテ保護スルコト——ソノ根本ハ休養デアアル。

(ロ) 身體ノ缺陷ヲ矯正シ佳良ナ食物、日光、新鮮ナ空氣ヲ與ヘルコト。

(ハ) 兒童ノ精神ニ他ノ強壯者ヨリ劣ツテ居ル如キ觀念ヲ起サセズシテ、シカモ功名心ニ早ラセ過ギルヤウナコトモナイヤウ適當ニ教導スルコト。

コレノ諸事項ハ皆心臟病ニ對シテモ適用サレル。シカシナガラコレ等ノ諸事項ハ普通ノ状態ニ於テハ特別ノ施設ガナクとも出來ルコトデアリ、又更ニ
一方カラ見レバ社會事業家ノ所謂 *Problem Families* ナルモノハ無數ニアツテコレヲ一々保護スルトイフコトハ不可能デアアル。又カ、ル家族ハ必ズシモ
貧困或ハ無智ノ家族ニ限ラレテハ居ラズ、理由コソ種々デアレ知識階級ニモ富裕者ノ間ニモ存在スル。

金錢努力ノ經濟カラ論ズレバ心臟病モ結核モ兩方トモ同一施設内ニ於テ豫防的ノ世話ヲナスコトガ出來ルデアラウ。或ハ更ニ何デモ醫者ノ發見・矯正ヲ要
スル一般ノ虛弱兒童ヲコレニツケ加ヘルコトモ出來ル。而シテコレハ又偶然的ニモ「プレベントリウム」ニシテ世間カラ結核學校トイフ野蠻的俗稱ヲ受ケ
テ居ルモノニ對シテハ、ソノ汚名ヲ除クコトニモナラウ。

結核豫防ノ處置ニモ個人的ニハ種々ナ階梯ノアルコトカラ論理的ニ推考シテ行ケバ凡テノ兒童ニ對シテ、ソレゾレ個人的ニ適當ナ保護が必要トイフコト
ニナル。

Preventorium Care ノ發達ハ、ソレガ一施設トシテデアツテモ、家庭ニ於ケル注意トシテデアツテモ、其ノ何レテモ心臟病ト結核ノ豫防ニ從事スル者ノ
共同ノ考慮ニ値シテ居リ又一般ニ虛弱兒童ヲ保護セントスル者ノ考慮ニモ値シテ居ル。

我が國ニ於ケル「プレベントリウム」運動ニ對スル希望 「プレベントリウム」運動ハ外國デモ、マダ如上ノ状態デアルガ、殊ニ日本ハ特殊ナ
事情ノ多イ國デアラカラ、日本ハ日本トシテ最も適切ナ施設ヲ考案シテ適當ナ名稱ヲ附スレバソレデ可イ。必ズシモ現在ノ定義ノ「プレベ

ントリウム」トイフ言葉ニ捉ハレル必要ハナイ、ソシテ兎ニ角私ハ今日ノ日本ニ於テハ兒童田園聚落タル「プレベントリウム」ト次第ニ重症向キニ移行シテ行ク「サナトリウム」トノ間ニ、結核豫防上最モ重要ナ被護者トシテ青少年虛弱者、就中結核性虛弱者ガ殘サレテ居ルコトヲ痛感スルモノデ、コレハヤハリ豫防ノ目的デアル以上「プレベントリウム」ノ中へ入レ、日本特有ノ發達ヲナサシメタイト希望スルモノデアル。

斯クシテ兒童ノミナラズ青少年虛弱者ノ間ニマデ醫師ノ保護ガ行渡ルトシテモコレニ依ツテ肺結核患者ヲ減少セシメ、傳染源勦絶ノ目的ヲ達シヨウトスルコト獨逸ノ最初ノ計畫ノ如クデアレバ、其ノ目的トシテハ失敗ニ終ルベキコトハ明カト思ハレル。ソレハ斯ク保護ヲシテモ全部發病ヲ免レシムル譯ニハ行カズ、又肺結核發病者即チ菌ノ撒布者ハ此ノ他ニモ隨所ニ於テ多數ニ現ハルベキデアルカラデアアル。故ニ社會國家ノ防疫ノ事業トシテハ單ニ部分的ノ仕事トシカ見ラレナイガ、併シソノ入院者個人ニ取ツテハ豫防ノ治療ニ依ツテ健康増進サレ、肺結核發病若クハ増悪ノ危險輕減サル、效果ノ極メテ大ナルベコトハ明カデアアル。カウイフ意味デハ海外ニ於ケル輕症肺結核收容ヲ目的トスル療養所、所謂舊式療養所モ人生ノ保健上大イニ貢獻シタ歴史トイヘヨウ。

上述ノ如ク、肺結核發病豫防ヲ目的トスル施設ハ、菌撒布患者ノ隔離處置ニ比較スルト、餘程多分ニ被護者個人ノ利害問題タル性質ヲ帶ンデ居ルノデアアルカラ、公費等ヲ以テスル場合ニハ、自然菌撒布患者隔離等ノ問題ヨリハ後廻シトナルベキ筈ト思ハレル、ソレデ、此ノ目的ニ對シ、先ヅ以テ經費少クシテ效果ノ多人数ニ及ブ方法ヲ實行シヨウトスレバ、第一ニハ指導・世話・監督等ノ如キ種類ノ仕事ヲ選擇スベキデアアル。從ツテ、先ヅ自費ヲ以テ主要入費ヲ支辨シ得ル者ノ保護ガ目標トナル。公共的費用ヲ以テ虛弱兒童ヲ收容スル如キ施設モ固ヨリ肝要デアアルガ、費用ノ點カラ言フト、斯クシテ比較的多額ノ費用ヲ以テ比較的少數者ヲ收容保護スルト、シテモ、ソレカラ多年後ノ青少年期ニ於テ眞ニ之ニ依ツテ結核發病ヲ免レ得ル者(コレ無ケレバ發病スベキ者)ノ數ト現在ノ全員入院ノ費用トヲ對比シテ見レバ、一人當リ隨分割高ナモノトナル、故ニ、コレハ當分前ニ述ベタ亞米利加心臟協會會報ノ論說ノ如ク心臟其ノ他全身諸臟器ノ保護ヲ兼ネタル一般ノ健康増進事業ニ讓ツテ置キ、結核豫防事業トシテハ差當リモツト經費ノ割合ニ有效ナ方法ヲ考ヘナケレバ實績ガ擧ラナイ。何レニシテモ、米國・伊太利・佛蘭西等ニ於テハ、國民ノ血ニ依ル人口増加ニ焦慮シテ居テ、而カモ産兒ノ少イタメニ兒童保護ニ資金ヲ惜マナイ風ガアルニ反シテ、我が國デハ寧ろ學生ノ過剩ニ累セラレテ試験地獄ノ如キ難關ニ同情セネバナラヌ實情デ、而カモ開放性肺結核患者ノ收容機關サヘ未ダ十分備ハラナイ貧弱ナ狀態ニ在ルカラ、其ノ深刻ノ程度ハ同日ノ談デハナイ。故ニ結局ハ其ノ國々ノ事情ニ即シテソレゾレ最モ適切ナ方法カラ著手セテバナラヌコト、ナル。

斯クシテ發病豫防措置ヲ兒童ノミナラズ青少年ノ間ヘマデ普及セシメ、而カモ先ヅ自費ヲ以テ入院保護ヲ受ケントスル者又ハ自宅練習ヲ爲ス者等ノ指導・監督ヲ先決問題トシテ、其ノ對策ヲ考ヘルト、コレガ普及ノ最モ容易ナルハ實地醫家ノ業務トシテ適度ノ有料テ行ハシムル方法デアル。米國ノ Life Extension Institute ノ主張ノ中ニ、寄附金ヤ慈善事業トシテ行フ仕事ニハ限リガアルガ、營業的ノ基礎ノ上デ行フ仕事ハ無限ニ擴ガリ得ルカラ、後者ヲ選ンダトアルガ、ソレハコノ場合トシテモ尤モナ言デアルト思ハレル。故ニ國家社會ハ第一ニ斯カル風習ノ勃興ヲ目標トスル社會教育、制度ノ改善等ニ力ヲ竭シ、以テ「豫防醫學實地」ノ普及ヲ計ルヲ至當トスルコトハ前ニ健康診査普及ノ條下ニ述ベタルト同一デアル。次イデ第二ニ其ノ經費ノ許ス範圍ニ於テ、一部ノ慈善的社會事業トシテ自ラ斯種事業ヲ經營スルモヨカラウ。若シ夫レ豫防的ノ公費入院等ノ問題ニ至ツテハ其ノ後第三ノ問題トシテ顧ミルベキヲ合理的順序トスル。試ミニ治療ト豫防、貧ト富ノ大體ノ相互關係ヲ結核防疫上簡單ニ對照サセテ見ルト、國家公共團體等ハ治療ニ關シテハ第一ニ療養ノ途ナキ重症者ノ始末ニ主力ヲ注グベキデアリ、反對ニ個人々々ノ豫防的保護ニ關シテハ先ヅ費用ヲ要スルコト少キ指導、世話等ノ事業ヲ先キトスベキデアル。

抄録

結核専門雑誌

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 57.

H. 6. 1930.

1、慢性肺結核症ノ成因ニ就テ

G. Grundner

著者ハ四例ノ病歴及一ノ「レントゲン」寫眞像ヲ舉ゲ、成人肺結核ノ成因ニ就テ述ベテキル。四例中、二例ハ増殖性結節性肺炎結核カラ下方ニ蔓延シタモノデアアル。他ノ二例ハ外來重感染ニ依ツテ起ツタ眞實ノ早期浸潤ノ定型的ナモノデアアル。「シニユーブ」トシテ間歇性ニ起ル處ノ結核ノ週期的經過ニ就テハ最後ノ一例ニ於テ説明シテオル、慢性肺結核ガ肺炎カラ始マルト云フ舊學說ノ正シイコトハ特ニ主唱シナケレバナラナイガ、結核ノ個々ノ病變所見ヲ知り、且之ヲ臨牀的ニ評價スル爲ニハ新學說ガ意義ヲ有スルノデアアル。

(黒丸抄)

2、Sauerbruch-Hermannsdorfer-Geroson

ノ鑛物食餌療法ニ際シ、結核患者血中

ノ酸鹽基手衝及「イオン」化セル「カル

シウム」、並ニ其變化ニ就テ

B. Varela, P. Recarte und J. Esculies

Cullen ノ不變血漿ノ P_{H} ハ重症ノ肺結核例ニ於テ正常ノ價ヲ示シテキル。同様ニ「カルシウム」總量及「イオン」化シタ「カルシウム」モ正常ノ價以內ニアアル。即ち Sauerbruch-Hermannsdorfer-Geroson ノ鑛物食餌療法ニ際シテ、血中ノ酸鹽基平衡ノ認ム可キ變動ヲ見ルコトハ出來ナイ。總「カルシウム」量及ビ無機磷ハ共ニ正常價ヲ持ツテキル。尿ニハ鹽化物ノ排泄ノ著シイ減少ト、酸排泄增加ノ傾向ヲ多少認メラレルガ、之ハ總テノ例ニ於テ見ルモノ、デハナイ。

(黒丸抄)

3、肺結核ノ脂肪及鑛物療法

A. Moeller

著者ハ二五例ノ肺結核患者ニ對シテ Lofoin ヲ用ヒ、甚ダ良好ナル成績ヲ得タ。コノ製劑ハ卵黃肝油乳劑ニ、「カルシウム」及磷酸鹽ノ加ハツタモノデアアル。

(黒丸抄)

4、試験管内ニ於テ結核患者ノ食細胞ニヨ

ル結核菌ノ喰菌率測定法ニ就テ

N. Westentjik

著者ハ試験管内ニ於テ、結核患者ノ血球ノ結核菌ニ對スル喰菌率ヲ測定スル方法ヲ考案シタ、氏ノ方法ニヨル成績ニ依レバ、患者ガ重症デアアル場合ニハソレニ相當シテ喰菌率ハ低イ。又同一毒力ノ菌株ヲ使用スルト假定シ、他ノ條件ヲ保留スルト、強毒菌株ハ喰菌サレルコトガ少イ。

(黒丸抄)

5、結核菌ノ菌型ニ就テ

J. Orskov und K. A. Tensen

著者ハ結核材料(結核組織、膿、滲出液、排泄物等)ヲ四八種類集メ、之ヲ各

「シヤンメラ」濾過器¹⁾ニテ濾過シタル後、培養シ、又七〇ノ「モルモット」ニ接種シタ。其結果濾過性結核菌ヲ證明スルコトハ不可能デアツタ。而シ唯一例ハ四ヶ月ノ經過ニ於テ致命的ノ播種性結核ヲ起シタ。(黒丸抄)

6、肺結核ニ於ケル皮膚疾患、特ニ痤瘡ニ

就テ

R. Griesbach

著者ハ二〇〇例ノ肺結核患者ノ四一・〇%ニ痤瘡患者ヲ見、又多數ノ他ノ療養所ノ患者ニ就テノ統計的調査ヲ總合シ、痤瘡ノ肺結核ニ對スル關係ヲ次ノ如ク述べテオル。即痤瘡ノ結核患者ニ生ズルノハ、甚ダ特殊ナモノデアアル。之ハ特殊ノ、恐ラクハ結核菌毒素又ハ濾過型ニ依ルモノデアツテ、結核菌ニ依ツテ起ルモノデハナイ。(黒丸抄)

The American Review of Tuberculosis,

Vol. XXIV, No. 1, 1931.

7、Galen ノ肺結核療法

Joseph Walsh

コノ一文ハ(Galen)ノ結核療法ヲ近代語ニ詳シク譯出シタ最初ノモノ、デアアルト筆者自ラ註ラシテ居ル。肺結核ノ分類、咯血ノ療法、肺ノ潰瘍ノ療法、結核患者ノ聖地 Stabae 及ビソノ地ノ素晴シイ牛乳ニ關スル説明、他ノ食餌殊ニ鳥肉、豚肉、人肉、臟器療法、廚房ニ常備シ時々食卓ニ上ホス阿片及ビ大麻、飲料、沐浴、Galen ト關係ガアツタラシイ Stabiae ノ「サナトリウム」、患者ノ日課等ノ各項ニ就テ興味深イ記述ガナサレテ居ル。(柴田抄)

8、萎縮療法ノ一方式

抄 録

Jerome R. Head and O. C. Schlaack

著者等ハ過去十八ヶ月間、主トシテ都市労働階級ノ患者ヲ收容シテ居ル Our Forest Hospital デ、片側肺結核症ハ盡ク外科的ニ治療スベシトノ原則ニヨツテ之レヲ實施シタ。ソノ方法ハ横隔膜神經捻除、人工氣胸、胸内鏡ニヨル肺臟剝離及ビ胸廓整形術デアアル。横隔膜神經捻除術ハ經驗者ガ行ヘバ絶對安全デアアル、氣胸術ハ一見簡單ナ様デアアルガ危害ハ前者ニ比シテ遙カニ多大デアアル。整形術ハ手術ニヨル死亡率ハ五%以下テ危害ハ少ナイ、而シテ最も徹底的ナモノデアアルガ或ル病型ノモノデハ氣胸ヨリモ無條件ニ優レテ居ルトハ云ヘナイ場合モアル。著者ハ片側性ノ肺結核症デハ病竈ハ微細デモ總テニ對シテ横隔膜神經ノ捻除術ヲ行フベキモノト考ヘル、之レニヨツテモ尙ホ病勢兀進スルモノニハ氣胸ヲ奨メ、ソノ不可能ナルモノ或ハ不安全テ無効ナモノニハ整形術ヲス、メル。現今ハ萎縮療法ノ適應ヲ定メルニドグマ的デアアツテナハラナイ、療法ノ效果如何ハ單ニ現在ノ病氣ガ快クナリ或ハ停止スル丈テナク永キニ互ツテ再發セヌト云フ意味カラ判断セシバナラヌ。(柴田抄)

9、結核性膿胸ニ横隔膜神經捻除、一例報告

R. H. Sundberg

結核性膿胸ニ對シ横隔膜神經捻除ノミヲ施シ後ニ胸廓整形術ヲ行フ事ナクシテ膿腔ガ塞ガツテ治癒シタ例ハ未ダ文獻ニ見ラレナイ。コノ例ハ上述ノ如キ稀有ナル一例テ、久シク瘵孔ヲ持ツテ居タ結核性膿胸ニ「プラスチック」ノ豫備トシテ横隔膜神經ヲ十四種切除シタ所ガ驚クベシ一週間テ排膿ガ止ミ、二週間テ膿腔ハ治癒シタ、カクテ下熱後一ヶ月テ就業シタガ今日迄六ヶ月間通常ニ働ラキ再ビ排膿ヲ見ナイ。(柴田抄)

10、Ascoli ノ反對側一次性人工氣胸ノ即效

一七二五

M. Lucacer (Palermo, Italy.)

一側ノ氣ガ他側ノ病竈ニ好影響ヲ與ヘル事ノアルノハ經驗ノ示ス所デアアル、
 Ascchiノ縱隔膜ノ位置ハ肋膜腔内ノ陰壓ニヨツテ定マル事ヲ發見シタ。若シ
 一側ノ壓ガ亢進スレバ縱隔膜ハ壓ノ差ニヨツテ他側ニ移動シテ平衡ガ保タレ
 ル、初メノ間ハ胸内ノ調節ハ縱隔膜ノ移動ノミテ行ハレ縱隔膜ガ移動シ得ル
 極限ニ達シタ時初メテ兩側ノ壓ノ差ガ現ハレル、カクシテ一側ノ氣胸ニヨリ
 反對側ノ肺ニ輕度ノ壓縮ガ起リ得ルノデアアル、コノ考察カラシテ Ascchiハ
 肋膜癒着ガ廣汎テソノ側ノ氣胸形成ガ不可能ナ場合ニ第一次ニ反對側ノ氣胸
 ヲ作ル事ヲ思ヒ付イタノデアアル、著者ハ自ラ實施シタ三例ニ於テ大體満足ス
 ベキ結果ヲ得タト報告シテ居ル。

(柴田抄)

11、體位ノ橫隔膜及ビ縱隔膜ニ及ボス影響

(殊ニ橫隔膜神經捻除ニ關聯シテ)

Incoln Fisher

橫隔膜ノ運動ハ臥位ヲトレバ一般ニ兩側共ニ大トナルガ一時間後ニハ稍々舊
 ニ復スル。側臥位テハ橫隔膜ハ最初下半側ハ上昇シ上半側ハ低下シ、一時間
 後ニハ兩側共ニ高クナル、又心臟ト縱隔膜ノ内容ハ下半側ニ轉位スルガソノ移
 動ハ右方ヘヨリモ左方ヘノ方ガ著シイ。橫隔膜神經ヲ切ルト反對側ノ橫隔膜
 ノ下降及ビ運動ノ増大ガ起ルガ之レハ側臥位ニ於テ著シク且ツ持續スル下側
 ノ方ハ腹部臟器ノ壓ニヨツテ益々胸内高ク押し上テラレル。體位ニヨル心臟
 及ビ縱隔膜ノ移動モ亦橫隔膜神經切除後大トナル。以上ニヨリ、橫隔膜神經
 切除後健側ヲ下ニシテ橫臥スル事ハ賛成出來ナイ。側臥位ヲ取レバ橫隔膜呼
 吸ガ強盛トナリ從ツテ肺上葉ニアル病竈ノ安靜ヲ助長スル。殊ニ一側ノミ或
 ハ他側テハ僅カニ肺尖部ノミ侵サレテ居ル患者ニハ橫隔膜神經切除ヲ行ヘバ

靜臥ノ效果ハ一層大トナルデアロウ。

(柴田抄)

12、「モルモット」ノ急性實驗的牛結核症ニ

「ウィオステロール」ノ大量ヲ與ヘテ起

ル石灰化

T. T. Walker and T. D. Spies

急性ノ牛結核症ニ罹ラセタ「モルモット」ニ「ウィオステロール」ノ大量ヲ反復
 シテ與ヘルト乾酪性病竈中ニ廣イ石灰化ガ起ル、コノ石灰變化ハ「ウィオステ
 ロール」ヲ與ヘナイ動物ノ結核病竈ニ見ラレルモノヨリ甚ダ著明デアアル、又
 「ウィオステロール」テ治療シタ結核動物ノ心、肝、腎諸臟器ノ健常組織中ニ
 モ石灰ガ沈著シテ居タ。

(柴田抄)

結核専門外雜誌

13、各種結核性疾患ト「エレクトロカルチオ

グラム」トノ關係ニ就テ(第二回報告)

低血壓ヲ有スル各種結核性疾患ノ房

室刺戟傳導時間竝ニ心室收縮時間ト

血壓トノ關係ニ就テ

玉田政助、西那彦嗣(京都醫學雜誌第二十八卷

第九號)

著者ハ各種結核性疾患中低血壓ヲ有スルモノ、房室刺戟傳導時間竝ニ心室
 收縮時間ト血壓トノ關係ニ就キ觀察セル結果トシテ次ノ如ク述ベラル。
 一、各種結核性疾患中一二一例中低血壓者三六例、約三〇%ニ相當ス、其ノ

最高血壓ハ九九—一〇〇耗、水銀柱ノモノ大多數ニテ七〇耗水銀柱以下ノモノナシ。

二、最高血壓トノ關係。

(a) 最高血壓九〇耗、水銀柱以下ニテハ「C」ハ延長スルモノ稍々多ク九〇耗以上ノモノハ却テ短縮スルモノ多ク、之ニ反シ九〇耗以上ニテハ「D」ノ延長スルモノ多シ。

(b) 延長、短縮ノ時間的關係ハ最高血壓七一—八〇耗水銀柱ニテ「D」ノ著シキ延長「C」ノ著シキ短縮ヲ認ムルモ血壓ノ高サトハ必ズシモ比例セザル事ヲ認メタリ。

(c) 高階氏及ビ Fildenia 氏ノ公式ニヨル誤差範圍ヲ超ユルモノハ最高血壓九〇耗水銀柱以下ニテハ其例率稍々大ナリ。

三、最低血壓トノ關係。

(a) 延長短縮ノ例率關係ハ最低血壓六一—七〇耗、水銀柱ニ於テ「D」稍延長スルモノ多キモ其他著シキ差異認メ難シ。

(b) 延長、短縮ノ時間的關係ハ最低血壓四一—五〇耗水銀柱ニ於テ「D」ノ延長度著シキモ其他著シキ差異認メズ。

(c) 高階氏及ビ Fildenia 氏ノ公式ニヨル誤差範圍ヲ超ユル病的例率ハ最低血壓七一—八〇耗水銀柱ニテ少キヲ認メタリト。(川上抄)

14、結核菌沈降反應ニ就テ

井上達(岡山醫學會雜誌第四十三年第八號)
(第四百九十九號)

結核早期診斷ニ關スル研究ハ幾ト共ニ彌々盛ントナルニ至リ著者ハ近時類ニ改良發表見ツ、アル結核ノ補體結合試驗ヨリモ更ニ簡單ニシテ正確ナル沈降

反應ニヨリ不ガ診斷ヲ行ヒ得バトノ企テノ基礎トシテ實驗的ニ結核ノ沈降反應ヲ試ミタリト然シテ實驗材料並ニ方法實驗成績ヲ述ベ次ノ如ク結論セリ。
(一) 結核菌蒸餾水浸出液、其ノ製法甚ダ簡單ニシテ、而カモ其ノ抗原性優秀ナリ。

(二) 舊「ツベルクリン」、新「ツベルクリン」、無蛋白「ツベルクリン」ノ三劑ノ中反應原トシテハ、舊「ツベルクリン」最モ優リ免疫元トシテハ無蛋白「ツベルクリン」最モ秀テタリト。(川上抄)

15、胸膜炎ノ治療法、特ニ濕性胸膜炎ノ人

工氣胸療法ニ就テ(第一回報告)

栗田愛之助、深澤亥佐雄(軍醫團雜誌第二百十九號)

著者ハ陸軍兵員、二五例ノ濕性胸膜炎患者ニ胸液除去後人工氣胸ニヨル空氣送入ヲ行ヒ其ノ經過觀察ノ結果ヲ次ノ様ニ發表シテキル。

一、胸液排除ハ一般方法ニ依ルモ、空氣送入ハ滲出液穿孔點ノ附近及ビ前腋窩腺ヨリ肩胛腺ニ至ル間テ胸液及癒著ナキ場所ニ二、可及的疾患ノ早期ニ行ハル可キモ勿論、胸膜癒著、肺野ノ病變及全身狀態ニ考慮シ、三、送入空氣量ハ胸膜腔内壓ヲ標準ニシ(通常二〇〇乃至三〇〇耗)除去シタ胸液量ハ單ニ參考ニスル四、氣胸療法後ノ胸液及ビ空氣ハ其ノ吸收平行(胸ノ液吸收稍々速カ)尙、癒著等ノ關係ニテ一律ナラズ。五、本療法ハ甚ダ有效ニシテ何等ノ禁忌ヲ認メズ。六、治療日數、一人平均十六日ヲ算シ、七、同時併存セル肺結核ニ對シテモ治療的作用アリト。(矢部抄)

16、人工氣胸ト肝臟機能ニ關スル研究

木村亮藏、金山政義、加藤利雄(北海道醫學雜誌第九年第一號)

著者ハ甲乙二匹ノ犬ニ人工氣胸ヲ行ツテ肝臟機能ニ及ボス影響ヲ研究ノ結果次ノ様ニ報告シテキル。

一、人工氣胸後膽汁ノ分泌ハ甲犬ニ於テハ餘リ著シクナカッタガ乙ニハ膽汁量ガ甚ダシク増加シタ、ソシテ日數ノ經過ニツレ漸次減少シ、施術前ニ近ヅク。二、膽汁内膽汁色素、膽汁酸ハ初期ニヨツテ一時増量シ、二回、三回後ニハ一時減少スルガ後再び増量シ、施術前ニ比シ甚ダ多イ。三、膽汁成分及ビ比率ノ上昇或ハ低下ハ肺ノ壓縮ニヨル、肝機能ノ亢進或ハ低下ニヨルモノト考ヘラレル。四、氣胸後ノ膽汁色素竝ニ膽汁酸ノ増減ハ膽汁量ノ變化ノ無關係ニ發現スル。五、膽汁内尿素及ビ食鹽量ノ變化ハ餘リ著シクナイガ氣胸後第一日ニ一時ノニ上昇シ後低下シ更ニ時ノタツニツレテ増加スル傾向ガアア。

(矢部抄)

17、人工氣胸ト組織反應ニ關スル研究

木村亮藏(北海道醫學雜誌第九年第九號)

著者ハ人工氣胸ト組織反應ニ關シテ、家兎ニ實驗ノ結果次ノ様ニ述ベテ居ル。

一、家兎ニ大量送氣ヲ行ヒ一側肺ヲ強度ニ虚脱サセルト、組織ハ早期ニ其ノ反應酸性側ニ移動シ、時間ノ經過ニツレ一水素「イオン」濃度ガ下リ該組織個有反應ニ復歸シ更ニ一時「アルカローシス」ノ状態トナリ後正常ニ歸ル。二、兩側肺ノ虚脱ハ組織ノ反應ヲ一側ノ場合ヨリモ稍々強ク酸度ヲ高メ尙長時間持續サセル。三、五・二%前後(正常氣壓内)ノ炭酸「ガス」蓄積ハ短時間内デハ組織水素「イオン」濃度ヲ變化サセズ、四、氣壓低下ヲ一定程度ニ保ツテ時々空氣ヲ補給シ同時ニ炭酸蓄積ヲ極度ニ減シタ時ニハ家兎家兎組織ノ反應ハ稍酸側ニ移ルガ變化ハ強クナイ、五、氣壓低下ト共ニ酸素缺乏竝ニ炭酸「ガス」

分壓ノ大ナル氣中テハ組織ノ酸性化最モ大、六、急性窒息死ニヨル家兎ノ組織反應ハ酸性側ニ移動スル。

(矢部抄)

18、滲出性肋膜炎ノ直接發症機轉

附、軍隊胸膜炎竝「スポーツマン」肋膜炎

ニ對スル結核病原説ノ檢討

金井德二郎(日新醫學第二十一年第十二號)

著者ハ從來述ベラレテ來タ滲出性肋膜炎ノ原因ニツイテ、更ニ一步進ンデ其ノ直接發症機轉ナルモノニ觀察ヲ行ヒ、臨牀的ニ是等原因ノ諸條件ヲ確證シ尙、軍隊胸膜炎及「スポーツマン」肋膜炎ナルモノモ、所謂原發性肋膜炎ナルモノト、ソノ發症ノ機轉ヲ一ニスルモノデアツテ、結核ノ感染ニ關シテハ、本症ヲ誘發スル上一ニツノ遠因ヲ爲スノミデアツテ、其ノ病原トシテノ意義ハ、感冒、肺炎、急性「ロイマチスムス」等ノ何等異ナル所ハナイト述ベテキル。

(矢部抄)

19、肺結核ノ病理解剖學的竝ニ組織學的研究

堀地四期氏(十全會雜誌第三十六卷第九號)

結核ノ病理解剖學的所見ハ千態萬様ニシテ一ノ尺度ヲ以テ之ヲ律スルコト能ハズ、茲ニ於テ著者ハ肺臟内結核性病竈ノ病理解剖學的竝ニ組織學的研究ヲ志シ、各種病竈ノ所見ヲ比較考察シテ共通點ヲ探子結核性變化ノ理解ヲ明瞭ニセンコトヲ努メタリ。即チ肺結核竈ハ殆ド常ニ組織學的ニ層輪形成ヲ認ムルモノニシテ、結核菌ノ毒性作用ノ強サニ從ヒ顯著ノ度ヲ異ニスルモ、一般ニ中心部、柵狀層(第一層)、環狀層(第二層)、小圓形細胞層(第三層)、結締組織層(第四層)ノ五層ヲ認メシム、而シテ層輪的觀察ニ據リ、次ノ知見ヲ得タ

リ。

(一) 増殖型ハ一般ニ中心部、第四層ハ不著明ニシテ、第一層、第二層ハ著明ナリ。滲出型ハ之ニ反シテ中心部、第四層ハ著明ニシテ、第一層、第二層ハ不著明ナリ、但シ乾酪化竈、包裹竈ニテハ何レモ著明トナル、移行型ハ兩者ノ中間ニ屬ス、軟化竈腔洞ニ於テハ比較的免疫期ノモノハ著明ニシテ、過敏期ノモノハ中心部、第四層、著明ナルモ、第一、第二、第三層ハ不著明ナリ。

(二) 進行型病竈ニ於テハ第四層ハ所謂炎症性肺水腫ノ像ヲ以テ來ルモ、其進行性停止セルモノニ於テハ、ソノ外側ハ吸收セラレ、内側ノ一部ニ間質結締纖維増殖シ被囊ヲ形成スルニ至ル、故ニ兩者ハ同一圈内ニ編入セラルベキモノト信ズ。

(三) 層輪形成ハ結核菌及其毒素ノ作用ガ肺組織滲透ニ由ル減弱ニ起因セル局所組織反應差異ノ反映ニシテ、殊ニ組織ノ纖維形成作用最モ重要ナル意義ヲ有ス。

(四) アシヨッフノ特殊被囊及ビ非特殊被囊ノ別ハ、纖維形成機轉、或ハ發生母地ノ相違ニ因ルモノニアラズシテ、既成或ハ新生纖維ガ結核菌毒性作用ノタメニ起ル二次的變化ノ差異ニ由來ス、而シテ層輪觀察ニ於テハ前者ハ第一第二ヨリ後者ハ第四層ヨリ形成セラル、ヲ以テ割然タル區別アリ、此意味ニ於テ兩者ノ區別ハ重要ナリ。

(五) 特殊被囊非特殊被囊間ニ存スル巨細胞、上皮様細胞ヨリ成ル小結節狀物ハ、獨立セル小結核ト見做スヨリ、母病竈ノ一分野トスル方合理的ナリト信ス。

(六) 竈内纖維増殖ハソノ發生母地ノ所屬如何ニ關係ナク、唯中心部殘存結締組織ノ再生機能侵害ノ程度ニヨリ、或ハ肺胞壁ヨリ、或ハ血管、氣管枝周圍結

締織ヨリ形成セラル。

(七) 結核菌ハ中心部ニ最モ多ク第一層甚ダ少數、第二層ニハ稀ニシ第三、第四層ニハ證明セザルモノ多シ、但シ過敏軟化竈及腔洞ニハ各層共ニ證明セリト尙ホ氣管枝ト肺結核竈トノ關係ヲ述ベテラル。(岩岡抄)

20、喉頭結核患者ニ對スル鼻ノ治療

Thost, A. (Zentralblatt für die gesamte Tuberkulose-forschung, Bd. 34, H. 11/12, 1931.)

鼻呼吸ハ健康者殊ニ咽頭、喉頭ニ疾患アル者ニ對シテ必要ナルガ就中最モ重要ナルハ喉頭結核ノ場合ナリ、此レハ咳嗽、咳痰ヲ誘發スル塵埃、乾燥セル空氣等ノ外因性刺激ヲ避クル必要アルガ爲メナリ、中隔彎曲、甲介肥厚、茸腫ハ場合ニヨリテハ手術ヲセザル可カラズ、乾性加答兒、結痂鼻前庭ニ於ケル濕疹ニ對シテハ著者ハ一%「パラフィン」、メントール」及ビ軟膏治療ヲ推奨セリ、裂瘡、潰瘍ハ硝酸銀、乳酸ヲ以テ腐蝕ス、軟膏ノ中テハ「インスピロール」軟膏ヲ最モ適當ナリトナス。鼻腔分泌物ノ非常ニ多量ナル場合ニハ食鹽水ニテ洗滌ス、大都市ノ住民及ビ二〇—五〇代ノ患者ニテハ微毒ノ合併セルモノ一〇%ヲ占ムル故ニ驅微療法ニ就テ考慮セザル可カラズ。(春木抄)

21、今日ノ法醫學立場ヨリ見たル人工的

妊娠中絶ノ適應症ニ就テ

Naujoks, H. (Zentralblatt für die gesamte Tuberkulose-forschung, Bd. 34, H. 11/12, 1931.)

主要ナル内科的疾患ニ對シテ産婦人科醫ガ妊娠中絶ヲナス可キカ否カニ就キテノ難點ニ關シテ綜説的ニ記載セルモノナリ、著者ハ妊娠中毒症、血液病、糖尿病、心臟疾患、腎盂炎、癌ノ際ニ行ヘタル妊娠中絶ノ影響ニ就キテ述ベ

殊ニ肺結核ノ場合ニ於テハメンゲ、アウグスト、マイヤー、シエーレルノ説ヲ引用シテ詳細ニ論ズ、結核治療所ニ於ケル治療及ビ妊娠中竝ニ分娩後ノ人工氣胸療法ニヨリテ妊娠中絶ノ數ハ著シク減少セシムル事ヲ得。

結核性脊椎炎ニシテ妊娠ノタメニ増悪スル場合ハケーニツビ、ゴエックノ説ノ如ク直チニ中絶ス可キモノナリ、喉頭結核ノ場合ニハ此レ迄ハ一般ニ中絶ヲナス可キモノトセラレタルガ、最近フキンクハ此レト異レル意見ヲ發表セリ。

22、小學兒童ノ結核ニ就テ

Delcourt, Albert (Zentralblatt für die gesamte Tuberkulose-

forschung, Bd. 34, H. 5/6, 1931.)

結核ノ診断ハレントゲン検査竝ニ研究室ノ補助ナクシテハ困難ナリ、故ニ學校醫ハ此等ノ補助診断法ヲ利用シ且ツ助手ニシテ家庭巡廻ヲナサンメザル可カラズ、學校醫ハ單ニ兒童ノミナラズ教員及ビソノ他ノ學校勤務者ノ身體検査ヲナス必要アリ、體操、競技、水泳ハ學校醫ノ許可ヲ待ツテ始メテ許可ス可キモノナリ、著者ハBCG氏接種ノ好結果ヨリ「ツベルクリン」反應陰性ナル兒童ヲ收容シテBCG氏接種ヲ施行スル療養所ヲ設置スル必要アリトス。

(春木抄)

會報並ニ雜報

〇十一月中新入會者

- 渡邊 健 三 東京帝國大學醫學部齒科口腔科
- 丸善福岡支店 福岡市博多上西町一八
- 榎山書店 東京市麴町區丸ノ内三ノ二
- 吳海軍病院 廣島縣

第九卷第十一號岡治道論文正誤

頁	行	誤	正
一四三	七	「レントゲン」線カ肺ヲ通過スル途中何處カテ：	「レントゲン」線カ肺ヲ通過スル際ニ、殆ンド病竈ニ觸レズ、其周圍ノ線カテ：
四五	三	「レントゲン」線カ肺ヲ通過スル途中何處カテ：	「レントゲン」線カ肺ヲ通過スル際ニ、殆ンド病竈ニ觸レズ、其周圍ノ線カテ：